

パラ関係の運営に関して、トラブルもなく概ね任務を滞りなく遂行できたものと思います。それも、パラに熟知したTO 各位の一致協力のお陰であり、感謝申し上げます。

とは言え、改善点は何点か見かけられたので、将来のパラの普及と発展のため、具体的に記述しておきます。

1. パラトランジションには装具等を入れるためのカゴが設置されましたが、カゴが小さくて装具等が入りきらないことがありました。
⇒もう少し大きめのカゴであれば、装具 2 つやクラッチ杖もカゴ内に収納できると思います。
2. ペットボトルに関して、トランジションで飲む分はトラバックに入れておけば OK でしたが、一部の選手から「整理整頓するためにカゴがあるのに何でトラバックに入れないといけないの？何のためのカゴなの？」と質問がありました。装具等を使用しないパラ選手からするとそのように考えるかもしれませんが、「ローカルルールでバイクシューズ・ヘルメット等以外はトラバックに入れると決まっているのでご協力お願いします」と伝えてトラバックに入れてもらいました。
⇒一般選手と同じ目線での公平な審判活動が今後必要ですね。
3. B グループの受付・トランジションクローズは 8 : 30、パラトランジションは完全にクローズできないので待機はトランジションでしたが、9 : 50 過ぎまで準備等してその後荷物預けもしていました。
⇒これも、一般選手と同じ目線での公平な審判活動が今後必要ですね。
受付の動線からBの時間に受付せざるをえないに加え、一般選手よりも装具や機材も特殊なため時間的な余裕が必要かと考えておりました
4. トランジションラン出入口から第 2 ランに出ていく際、パラ選手のバイク、車椅子レーサー、タンデムバイク等のパラトランジション出入口と重なるときは、拡声器を使い注意喚起し、危ない場面は特にありませんでした。
拡声器を持ったTOはトランジション担当？パラトランジション担当？1台だけでしたでしょうか？
5. 競技終了後、「スポーツ用義足では歩きにくい（ラン用なので）日常生活用の義足に変えたい、工具等もトランジションにある」ということで、トランジションオープン前に入れました。
⇒日常生活用の義足はレース中に使用していなかったため、荷物置き場に預けるように声かけするべきでした。

まとめ

一般選手と同じ目線での公平な審判活動をするには、パラ選手に対してどこまでが OK でどこらかがNGなのか、線引きが今後の課題になってくると思います。駐車場に関して、一般選手から「パラ選手にはガイド・ハンドラーが付けれるんだから、トランジションに車を横付けしなくてもガイド・ハンドラーが運べばいいんじゃないの？」という意見ももらっています。パラ選手と審判員は普段から一緒に練習しているので非常に仲がよく団結力が素晴らしいです。その一方、パラ選手だからこれくらいはいいよね、と認めてしまう時もあります。配慮は必要だけれども、それが特別扱いにならないように、公平な運営が大切になってくると思います。

クラス分けに関して、エリートパラは審査が厳密な PT カテゴリーを用いていますが、エイジパラは審査を取りやすいTRI カテゴリーを用いている大会もあります（ワールドマスターズ大会、横浜、千葉、蒲郡、七ヶ浜、さがえ、渡良瀬、横浜シーサイド）エイジ

は、どのカテゴリーに該当するかは自己申告で、PT カテゴリーでは自分がどのカテゴリーに該当するか分からない（特に初めてのパラ選手）ので、TRI カテゴリーでもいいと思います。

前回大会までPTカテゴリを使用しておりましたため継続しました。今回PTカテゴリ認定が不明な長瀬さんは4に入ってもらいました。

今回は、コロナがない時とは大きく変わったレース運営スタイルで、いろいろ勉強させて頂きました。どうもありがとうございました。引き続きどうぞよろしく願いいたします。

大阪府トライアスロン協会

岸 智子

パラ担当の岸田です。

当日は天気にも恵まれ大きい事故もなく素晴らしい大会になったと思います。

パラ担当として気づいた点を報告します。

- ① PTWCの選手がバイクでパンクの連絡がありました。ところが誤報で戸惑ってしまいました。誤報も問題ですが、PTWCの選手が自走で戻れない時の対処は検討していませんでした。

今後は考えておく必要があると感じました。

メディカル担当から。

パラの車いす選手が救護の対象となる場合、ハンドサイクルや車イスを回収する必要があります。そのため加西市役所側から、救護用のワゴン車に加えて軽トラックの用意があります。

自走不可の場合、救護の状況も見つつコースの障害排除目的でも使えないか、次回への課題としましょう。

- ② パラトランジッションの出入り口とエイジのランコースが交差し、気を使う場面がありました。

良かった点は選手全員生き生きとレースをしていました。以上です。